

# 大学入試に 関する経団連の考え方

2020年7月21日

一般社団法人 **日本経済団体連合会**  
**教育・大学改革推進委員会企画部会長**  
**宮田 一雄**

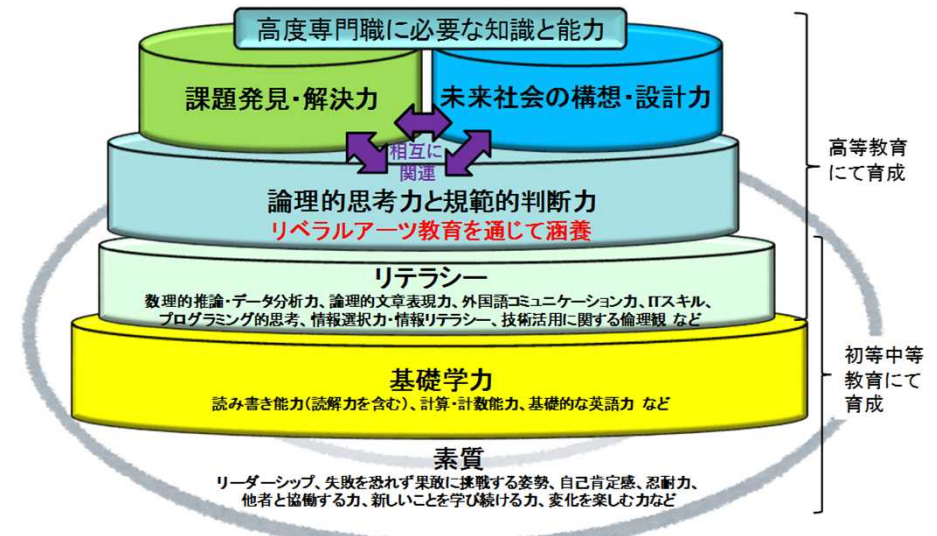
# 1. Society 5.0で求められる能力と大学教育

## Society 5.0



【出典：経団連「Society 5.0 -ともに創造する未来-」(2018年11月13日)】

## Society 5.0で求められる能力と素質



【出典：経団連「Society 5.0に向けて求められる初等中等教育改革 第一次提言」(2020年7月14日)】

## Society 5.0で求められる大学教育

- 最終的な専門分野が文系・理系であることを問わず、**リテラシー（数理的推論・データ分析力、論理的文章表現力、外国語コミュニケーション力など）**や**論理的思考力と規範的判断力をベースに社会システムを構想・設計する力**などが求められ、これらの能力を身につけるには、**基盤となるリベラルアーツ教育が必要**
- こうした能力を育成するためには、**初等中等教育から始めて大学院レベルまでの教育が必要**
- 大学における**社会人リカレント教育の拡充が必要**

➔ Society 5.0で求められる大学教育からバックキャストして、大学入試や初等中等教育のあり方について検討することが必要

## 2. 大学入試改革に関する考え方（総論）

### 大学入試の現状

- 近年、**大学入試センター試験**を利用する大学の大多数が私立大学であり、かつセンター試験の結果のみで入学者選抜を行っている大学もある
- 選ばなければ誰でも大学に入れる時代（大学全入時代）を迎える中、定員割れを防ぐために実質無試験で学生を入学させるなど「**入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）**」が**骸化**している大学も存在
- Society 5.0では文理融合の知識が求められるが、**大学入試に文系・理系の区分が存在**

### 求められる大学入試改革（総論）

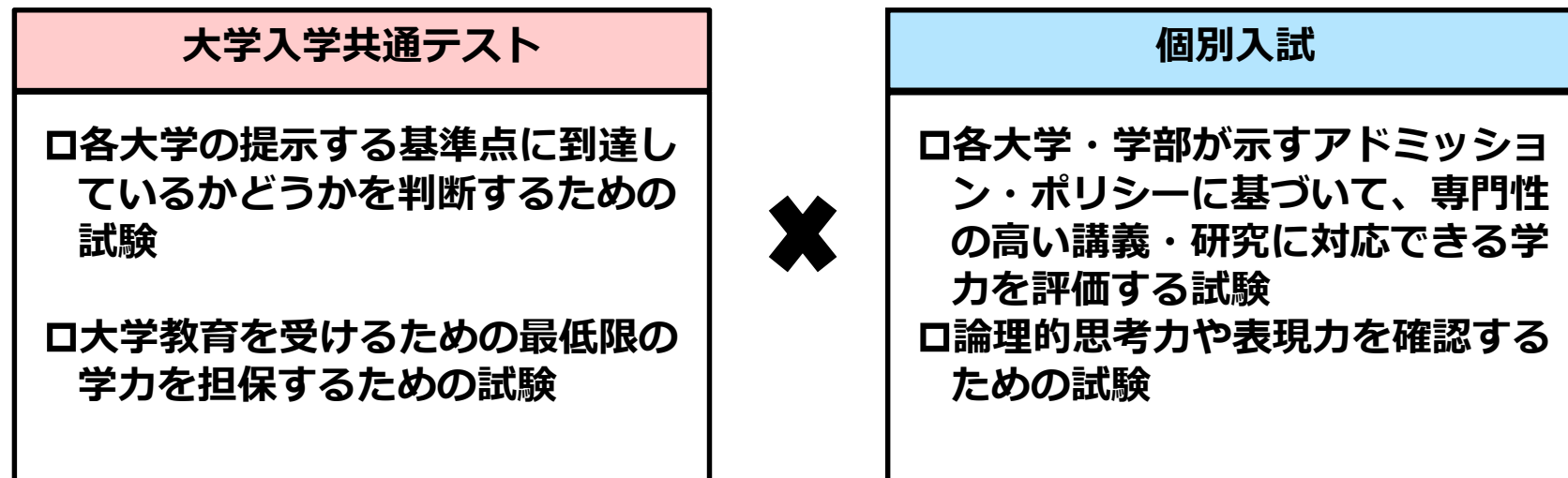
- 各大学は、**自らのアドミッション・ポリシーに基づいて**「学力の3要素」（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を評価する**入学者選抜のあり方を改めて真剣に考えることが必要**
- 各大学は、**大学入学共通テストと個別入試との組み合わせにより、受験者が当該大学入学後の教育・研究に必要な学力を有しているかを判定すること**

### 3. 大学入学共通テストと個別入試

「Society 5.0に向けて求められる初等中等教育改革 第一次提言」（2020年7月14日）における記載内容

- 政府は、**大学入学共通テストの実施目的、各大学が実施する個別入試との役割分担を明確化**すべき。

【会員企業へのヒアリングで聞かれた意見】



ヒアリングした会員企業の共通認識

各大学は、大学入学共通テストと個別入試との組み合わせによって、**アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜**を行うべきである。

## 4. 英語4技能を評価する英語資格・検定試験の活用

「Society 5.0に向けて求められる初等中等教育改革 第一次提言」（2020年7月14日）における記載内容

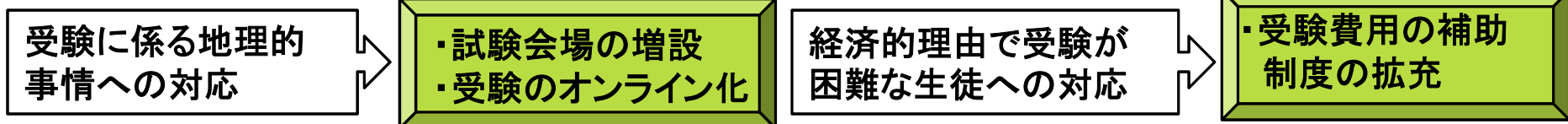
- グローバル・ビジネスにおいて英語は世界共通語となっていることや、**アジア諸国と比べても日本人の英語力は低い**ことを踏まえれば、英語4技能（「聞く」「読む」「話す」「書く」能力）をバランスよく育成することが喫緊の課題。
- 高校の**新学習指導要領**において**英語4技能を総合的に扱う科目**や**英語による発信能力が高まる科目**の設定などの取組みが求められている。
- 一方、**地方の公立高校を中心に、英語4技能をバランスよく教えられる教員の不足等**により英語の授業方法の改善が進んでおらず、都市部の高校や私立の高校との教育格差が生まれているとの指摘がある。
- そのため、大学入試における英語4技能の測定は、Society 5.0の人材に必要な能力の評価だけでなく、**高校における英語の授業方法の改善、ひいては教育格差の是正につながる。**

- 大学入試センターは「大学入試成績提供システム」において、英語4技能を評価する英語資格・検定試験の成績を一元的に集約・管理
- 各大学が大学入試センターより提供された英語資格・検定試験の成績を大学入試に活用できる仕組みを早急に構築することが求められる

【会員企業へのヒアリングで聞かれた意見】

- 各大学が、**アドミッション・ポリシーに基づいて、大学入試で英語4技能をどの程度評価するか、民間英語資格・検定試験のどのレベルを求めるかを判断すべき。**

英語資格・検定試験の活用に関する批判への対応



## 5. 「思考力・判断力・表現力」等の評価

「Society 5.0に向けて求められる初等中等教育改革 第一次提言」（2020年7月14日）における記載内容

- 各大学は、知識・技能だけでなく、生徒の多様な能力やリーダーシップ等の資質、高校時代に実施した様々な体験活動なども、総合的に評価することが望ましい。

### 【会員企業へのヒアリングで聞かれた意見】

- 「思考力・判断力・表現力」等は重要であることは論を俟たないが、**ペーパーテストのみで正確に測るのは困難。**
- 「思考力・判断力・表現力」等を判断するためには、**高校までの学習に対する評価を入学者選抜で考慮**すべき。その際、高校までの学習に対する評価は、教員のみでなく、第三者機関と連携し、形式や基準の標準化と質保証を図る必要がある。
- 各大学が、知識・技能だけでなく、「思考力・判断力・表現力」や「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価するためには、**総合型選抜や国際バカロレア（IB）入試など多様な入試を実施することが必要。**
- 各大学が、**アドミッション・ポリシーに基づき、どの入試区分で学力の三要素それぞれをどの程度評価するかを受験生にわかりやすく提示することが重要。**

## 6. 大学入試における数学の試験や記述式問題の出題

### (1) 数学の試験

「Society 5.0に向けて求められる初等中等教育改革 第一次提言」（2020年7月14日）における記載内容

- Society 5.0では、数理的推論・データ分析力等が求められることを踏まえると、**文理を問わず、数学の試験は全ての大学が課すべき。**

### (2) 記述式問題

「Society 5.0に向けて求められる初等中等教育改革 第一次提言」（2020年7月14日）における記載内容

- 各大学は、論理的な文章構成・表現力を測定する観点から、**個別入試に記述式問題を課すべき。**

#### 【会員企業へのヒアリングで聞かれた意見】

- **記述式問題は、文章表現力を評価するために、各大学の個別入試で実施すべき。**他方、**大学入学共通テストでは、採点上の公平性の担保が難しいことから、導入は避けるべき。**
- 記述式問題は、当該大学の学部・学科が必要としている記述力を評価するものであり、大学入学共通テストに記述式問題を出題するのは趣旨にそぐわない。国公立大学は基本的に個別入試で出題すべき。私立大学でも、難関大学では入試区分の1つに記述式問題を課すことを努力目標とすべき。
- 各大学は、アドミッション・ポリシーが求める能力の評価を、個別入試で記述式問題によって行うという考え方が妥当。
- 記述式問題を作問できない大学には、大学入試センターが作問を支援することも検討すべき。

## 7. 終わりに

---

- **大学入試において、英語4技能も思考力・判断力・表現力等も評価していくことが重要。**
- **各大学が、主体性・専門性を発揮し、自らのアドミッション・ポリシーに基づいて、入学後の学び・研究に耐えられる基礎的な学力・素養があるか否かを、大学入学共通テストと個別入試の組み合わせで見定めることが重要。**